

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3393500081		
法人名	特定非営利活動法人 ラヴィラント		
事業所名	グループホーム パオバブの木		
所在地	岡山県苫田郡鏡野町富東谷438		
自己評価作成日	平成26年12月 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3393500081-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd">http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3393500081-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館
訪問調査日	平成26年12月26日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた地域にある施設で、四季折々の景色を楽しみながら生活しています。洗濯物たたみや掃除など入居者のできる事は行えるように支援し、役割のある生活が送れるように努力しています。入居者一人ひとりのペースで生活していただき、みんな元気で居られるよう、毎日職員と共に体操や音楽に合わせた歩行を行っています。食事も体調を見ながら入居者一人ひとりの好みに配慮し、すべて手作りで作っています。みんなで豆のさやを取ったり、たこ焼きやお好み焼きを作ったり、おやつを作ったりもします。近所の保育園の園児が月に一度以上訪問してくれて、一緒に体操をしたり、踊りを踊ったり、太鼓を披露してくれたりしています。運動会や発表会にも招待してくれて、楽しく交流させていただいています。地域で行われるお祭り等の行事にも参加させていただき楽しんでます。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長年、障害者福祉に携わってきた理事長と、総合病院の給食を30年担当してきた妻である副理事長は共に高齢者福祉にも精通している。町の福祉施策による手厚い支援と地域住民の期待を大きく背負い、開設一年を迎えようとしている。開設当初より、毎月笑顔満載の「パオバブだより」を発行しているの、着実に各種の事業をこなして来ている実績がこの「たより」から十分に伺えた。特に、近年、口腔ケアの必要性が取り沙汰されている中、歯科医との連携にいち早く取り組み、1ヶ月に1回口腔ケアチェックに取り組んでいることを取り上げたい。適切な指導により体調が回復し、家族から大変な感謝をされたという実績をつくり上げている。アフリカに生息するパオバブの木の下で休息をとることから命名されたこのホームで9人の利用者がこれからは主人公となり、更に満足な生活が送れるよう望んでいる。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念を作成しており、毎日職員の日々に留まるよう、ロッカールームに掲示しています。	「人としての尊厳を第一に、安心、安全の介護に努める」を掲げ、利用者の思いを尊重し、決めつけないケアの共通認識に努めている。全員で取り組んだ「バオバブの木」が5月に完成し、このホームの象徴としてリビングの壁面に堂々と君臨しており、安心、安全、ゆっつりの全員の思いが詰まっている。	理念に示して内容をより具現化するために月または年毎に具体的な目標を設定し、職員が身近な行動として捉えられるようにしたらどうだろうかと思う。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われる行事に参加させていただき、近所の保育園の園児やボランティア団体にも訪問をしていただいています。施設の食材を地元のお店や地元の方に配達していただいたり、地域の方を通してお弁当をお願いしたり、地域のケア会議に出席し意見交換を行ったりしています。	地元の利用者、職員が大半を占めているこのホームは住民にとっても貴重な福祉施設であり、住民からも期待が大きい。ホームの玄関入口直ぐの場所に誰でも気軽に入れるスペースがある。訪問日にも、しめ縄作りの指導に来ていた隣人が、「ここでお茶を飲むのもええなあ」と言いながら、自然の付き合いが出来ていた。	間もなく2ユニット目が発足するようになっていく。この2つのユニットの利用者同士の交流、地域の方々との調和していく具体的な施策を作り、実行していくことが大きな課題として捉えてもらいたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加していただいている地域の方に施設の現状を知っていただいたり意見をいただいています。毎月発行している「バオバブだより」で日々の様子や行事などを報告しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で施設の状況を報告しています。実際に利用者様の様子を見ていただいたり、「バオバブだより」等で日々の様子や行事の様子を知っていただき、ご意見もいただいで、より良いサービスが行えるように考えています。	行政、包括支援センター、協力医、協力歯科医、地域住民組織代表、地区振興センター長、消防署、利用者とその家族等、多くの出席者で開催している。特に、災害に対する意見交換が活発で、緊急時の具体的対策が構築されていた。ホームから地域へ、地域からホームへの要請と利用者の幸せを推進会議から発信している多くの事を確認できた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、困った事があればその都度相談に乗っていただいています。特に、地域の振興センターとは密に連絡を取り合い、様々な協力をしていただいています。	町独自のホームの運営を支える体制とそれを取り巻く地域と、ホームの関係が良好である安心感がある。ホーム自体も、住民の緊急避難場所としての機能を果たしたいとして、今後ある程度の食料の備蓄を行っていききたいと聞いた。山間地特有の連帯意識の強さを感じた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないことを代表者および全ての職員が理解し、研修、支援に取り組んでいます。随時研修を行っていきます。	委員会を設けており、職員会議の都度、又、必要発生時に話し合い、職員の正しい理解を求めている。入所当初、夜間徘徊者に正しい理解の上に立った対応に努め落ち着いた暮らしを獲得した事例を聞くことができた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	代表者および全ての職員が、虐待に注意を払い防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域の研修に参加し、職員に周知徹底ができるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に分かりやすいように説明し、理解・納得をしていただき、疑問点があればその都度対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見にできるだけ答えられるように対処しています。家族が来所された際に要望等をお聞きすることもあり、その都度対応しています。意見・要望が言いづらい方には事務所前の意見箱を利用していただけるようにしています。	毎月「バオバブだより」と書きたい方は、1ヶ月に一度利用者から家族や知人宛てに絵手紙の発信を行い、日常の暮らしぶりや情報を提供しているのので、家族から「顔色が良くなった、笑顔が出だした」等、喜びの声が多く届いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の職員会議時に職員の意見や提案を聞く時間を設けています。会議以外でも、毎日のミーティング時等に随時意見や提案が聞けるようにしています。	日常の利用者に関する意見は主任が取りまとめ、副理事長に伝える体制を作っている。現在は利用者に関する意見に止まっているので、今後はより自由な積極的意見を求めていきたいと主任が話している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎日のミーティングや普段の会話の中で、職員の意見等を聞いたりして、職員がやりがいのある職場になるように環境・条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修や施設外研修に参加してもらい、資格の取得などができるように努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内外の研修等に参加していただくことで、他施設と交流する機会を作り、意見交換や情報交換が行えるように取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する際に、事前に本人を訪問させていただき、家族からだけでなく本人からもお話をお伺いし、信頼関係が築けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談、申し込み、面接の際に困っている事や要望等をよく聞き、信頼関係が築けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族等がその時まず必要としている支援を見極め、当事業所だけでなく他のサービス利用も含めた対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、家族の一員とさせていただけるよう利用者一人ひとりに寄り添い、安心して暮らしていただけるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時だけでなく電話で密に家族と連絡を取り合い、職員だけではできない部分は家族に協力してもらい、共に本人を支えていける関係を築けるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の自宅や昔よく行かれた場所にドライブに行くこともあります。地域の行事に参加して馴染みの人に会う方もおられたり、手紙のやり取りをされたり、電話でお話される方もおられます。毎月1回、みんなで家族等へ向けて絵手紙を書く時間を作っています。	毎月1回の絵手紙の発信は、家族以外の人に当てられることも多く、懐かしい人、大切な人との交流にもつながっている。職員も利用者も大半がこの地域の人なので、ホーム全体がお馴染みさんであり、友人が訪ねてきた時も他の人を巻き込んで楽しんでいるようだ。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の希望や利用者同士の相性を考慮して居場所作りをしています。毎朝、仲良しの方でお話ができるような時間を作ったり、お部屋を歩き来できるように配慮しています。難聴でコミュニケーションが取りづらい方は、職員がフォローし孤立しないように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院へお見舞いに行ったり、家族に会う機会があれば、退所後の様子を伺い相談や支援ができるように努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや要望を受けとめ、家族の来所時には家族の思いや要望も聞き、実現できるように努めています。	選択肢を出来るだけ多く作り、得意分野を見出すように努めている。野菜作りの人、習字を書いて貼り出している人、地域の行事に積極的に参加する人等、それぞれの思いが叶えられている様子が、「バオバブだより」の中に見ることができた。	利用者独自の生活歴やライフスタイル、個性や価値観の把握、家族から本人のバックグラウンドに関する情報を得て本人の全体像を知ることの、今少し深い作業を重ねて、その人らしく生活していくための支援につなげていきたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所面接で得た情報だけでなく、普段の会話の中でお話を聞き、常にアセスメントが行えるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を観察、把握し、何かあれば主治医にその都度相談を行い、有する力を向上できるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の話を聞き、意向に沿った介護計画ができるように努めています。	日常の経過記録から課題分析をまとめて、更新時と変化があった時にプラン作成している。利用者、家族の思いをプランニングすることについては課題も残されているが、経験豊かな他事業所の指導をしっかりと受け止め、プランのみならず何事も深く学ぼうとする努力が各所に表れている。今後に期待したいホームである。	このユニットに限って言えば9人の利用者の生活の満足度を高め、一人ひとりの心の拡がりをどのように支援していくかのプランづくりとモニタリング及びカンファレンスは具体的且つ単純にして効果をあげてもらいたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等を介護記録に記入し、職員間で情報の共有、見直しができるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の様々なニーズに柔軟に対応できるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	穏やかでゆったりとした地域環境の中、一人ひとりができる事を行いながら、安全で楽しく暮らせるように支援に努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望のかかりつけ医を大切に、受診の際は可能な限り家族に同行していただいています。定期的に訪問してくれるかかりつけ医もあり、その都度適切な医療が受けられるようにしています。	基本は家族対応にしているが職員が同行し、状態把握を行っている。山間地なので、入所者の便宜を図り、協力医に変更される利用者が殆んどであると聞いた。協力歯科医による月1回の口腔チェック往診があり、体調が回復して家族から喜ばれている事例を聞くことが出来た。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在職場内の看護師がいない為、24時間対応していただける医師と密に連絡相談し、適切な受診が行えるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際には情報提供を行い、それ以外にも連絡を取り合って病院関係者との関係づくりに努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期のあり方について、家族に説明を行い、できる限りの支援に取り組み、対応困難な場合は他の施設等を紹介するようにしています。	山間地で開設1年未満のホームとして、現状では常に医療行為が必要になった時点を条件としたラインを引いて利用者家族に理解してもらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のマニュアルを作成し、職員に周知徹底を努めています。救急法講習会を行い、今後も機会をみて行っていく予定です。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練を消防関係者、地域の方と一緒に、いつでも協力を得られるようお願いしています。緊急時には地域の方にも連絡網が回るようにマニュアルを備えています。	運営推進会議の発案で、11月に地域参加で夜間想定訓練を行っている。その際、色々な課題の発見もあり、地域住民の連絡網の再確認や利用者の歩行状態を書いて居室入口に掲示する等を実践している。住民側から「再々訓練をしよう」との提案があり、何事かの発生時には町の職員が駆けつける確約も出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議等で話をして配慮に努めていますが、今後研修を行う等して努めます。	人として恥ずかしい行為には厳重な配慮を行い、介入し過ぎないケアを申し合わせている。又、重要記録物には実名を使わず記号表示する等を実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の暮らしの中で思いや希望を表せない方には選択肢を示し、自己決定できるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしの中で行事等の都合上希望に沿えない時もありますが、できるだけ希望に沿えるように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者によりファッションに関心のある方、お化粧をしたい方等それぞれなので、その方の希望に沿った身だしなみができるよう配慮しています。定期的に地域のお店へ理容・美容に出かけています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを把握し、全て手作りで食事を作り、食事が楽しみになるようにしています。介護職員と利用者が一緒に食べています。	リビングに面した調理室で職員が調理している。副理事長が献立して、主任が総意をまとめて意見を出しているそうである。減塩食の献立と口腔ケアの実践が実を結び「体調が回復した、血色が良くなった」等、家族からも高い評価を得ている。誕生会メニューやお好み焼きパーティー等で変化を楽しんでいる様子も記録写真で確認する事だ出来た。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの摂取量、栄養バランスを考慮し、好みや状態に応じて摂取していただけるよう配慮しています。毎回、食事・水分量を記録し、職員が状況を把握できるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、月に一度歯科医による口腔ケアチェック・指導を受けて、清潔保持に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限り、トイレで排泄できるように声掛けを行い、自立支援に努めています。	水分量の管理を徹底し、排泄記録表により適切な声掛け誘導を行っている。紙パンツから布パンツに改善している事例も聞くことが出来た。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防に水分摂取や体操、歩行を心掛けていますが、便秘がひどい方は服薬等で予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回、9:30~16:30の間で、できるだけ利用者の好きな時間に入浴していただけるように努めています。行事等によって時間が限られる日もあります。	週3回の入浴を男女交互に実施している。男性職員の対応に抵抗感のある利用者に配慮を行い、時には緊急足湯に切り替えたりしながら、現在は全員が入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの希望やペースによって休息していただいておりますが、できるだけ夜間休んでいただけるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬が分かるように処方箋をファイルにまとめており、職員がいつでも見ることができるようになっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの今までの生活習慣によって、洗濯たみ、掃除、野菜や花の水やり、草取り等を一緒に行い、役割を持って生活していただけるように支援に努めています。日々の生活の中で、歌、体操、塗り絵等を行ったり、時には気分転換で散歩やドライブに出かけたりします。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に沿って、散歩やドライブ等に行けるように努めています。ご家族にも協力していただき、外出できるように支援しています。	リビングからも各居室からも馴染みの景色が広がり、立地環境そのものが外出支援に適しているホームである。昔から伝わるお田植え祭り等、この地域の伝統行事に参加したり、ホームの季節の行事等による外出の記録写真を「バオバブだより」で拝見することが出来た。又、少し離れた場所に二棟目の開設に伴い、棟間の交流が外出気分につながればとの期待も持てそうである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を紛失される恐れがある為、原則、持込み・所持をお断りしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいと希望があれば状態を見てかけたり、家族からかけていただいたりしています。月に一度、家族や大切な人に絵手紙を書く時間を作って、ほとんどの方が家族や馴染みの方に書いておられます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には利用者や職員が作った季節の壁飾りを飾ったりして、季節感を感じられるように努めています。温度調節は、利用者の意見を聞きながらその都度調節しています。	建物が長方形の造りで、中央のリビングの左右の延長が広い多目的空間になっており、それを挟んで対面式に居室が並んでいる。ソファコーナーと誰でも立ち寄れる場所が突起してある。リビング部分は床暖房により、厳寒地域にあっても穏やかな温もりが心地良かった。全員で作り上げたという自慢の「バオバブ木」の作品と正月の飾り物が飾ってあり、居心地が良かった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの利用者が思い思いに過ごせるようにソファや椅子を置き、自由に座れるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具など本人の馴染みの物を持ち込んでいただけるように家族に協力していただいています。	手洗い、ベッド、加湿器が備え付けであり、それ以外の必需品は持ち込み、季節ごとに衣類などは交換している。明るく、清潔に保たれている。目に止まったのは、各居室の入り口に、「車椅子」、「手引き」と利用者の緊急誘導時に参考にするための身体状況を表す札を掛けてあったことである。居心地のみならず、命を預かる立場の義務として重く受け止める事が出来た。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活が送れるように目印をつけて、自分で判断して行動できるようにしています。		